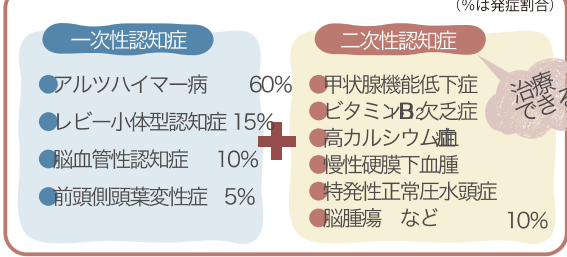


認知症



治療できる

な症状がみられることもあり
ます。これらはいずれも早期に
治療すればもとに戻ります。
ところが、手遅れになると治せ
なくなることもあります。
また、予防できる認知症も
あります。認知症全体の約1
割を占める「脳血管性認知
症」は脳出血や脳梗塞が原因
で認知症を引き起こすもので
す。したがって、生活習慣に気

を配り、高血圧や糖尿病など
の脳血管疾患をひきおこす可
能性の高い病気をきちんとコ
ントロールできれば、認知症に
至らずにすみます。

アルツハイマー病は
早期治療が決め手

一方で、神経変性疾患によっ
て引き起こされる認知症の場
合は、外科的・内科的治療に
よって根治するという訳にはい
きません。認知症全体の6割
を占めるアルツハイマー病もこ
の変性疾患の1つで、原因不明
予防不能、根治不能の難しい
病気であることは確かです。

しかしながら、アルツハイ
マー病に関しては進行を遅ら
せる薬が登場しています。か
なり進行してしまっている場
合でも薬によって進行を遅ら
せることは可能ですが、早期の
段階で治療を開始した方が、
高いQOL(生活の質)を維持
したまま過ごすことができます。
早期発見・早期治療に越
したことはありません。

見逃さないで！
軽度認知障害



日本老年精神医学会理事長
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学教授

新井平伊

1978年、順天堂大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。
1997年より順天堂大学医学部精神医学講座教授
(同大学院医学研究科教授兼任)。
1999年に若年性アルツハイマー病専門外来を開設。
2010年順天堂越谷病院院長代行。
2012年より順天堂医院認知症疾患医療センター長を兼任。
日本老年精神医学会、日本神経精神医学会理事長。



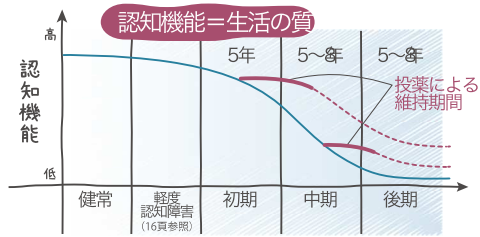
厚生労働省が「認知症患者数
462万人」という数字を発表
しました。これは、予想を大き
く超える数字です。超高齢社
会を迎えて、認知症患者が今
後ますます増えていくだろう
と予測されています。というの
も、高齢になればなるほど認
知症の発症率が急激に高まる
からです。

治る認知症もある！

認知症＝アルツハイマー病、
と思われがちですが、実は認
知症を引き起こす原因疾患
は数多くあります。その中に
は、早期に治療すれば治るも
のや、予防できるものもあり
ます。「認知症になったら、も
う治らない」ということはあり
ません。

たとえば甲状腺機能低下や
ビタミン欠乏などの内科的疾
患によっても認知症のような記
憶障害がおこります。脳腫瘍
や正常圧水頭症などの脳疾患
が原因となって認知症のよう

投薬時期によるアルツハイマー病の経過と認知機能



「感情の安定」が大切

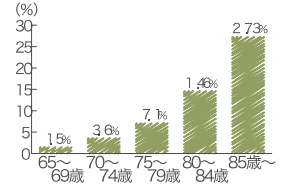
認知症には、記憶障害や理
解力・判断力の低下などの「中
核症状」と呼ばれるものと、異
食、徘徊などの「随伴症状」と
呼ばれるものがあります。介
護をする方にとってストレスに
なるのは、多くの場合、「随伴
症状」の方です。

随伴症状が現れるのは、認
知症患者ご本人が感じている

認知症とは？



年代別、認知症の発症率



意

知(認知)

情(感情・情緒)

土台となる「情」が不安定になると、知・意も不安定になる



ストレスが原因と考えられて
います。周囲の人が患者本人
の気持ちに耳を傾け、必要な
環境を整え、ストレスやプレッ
シャーを与えないように配慮
しましょう。
間違いを訂正する、叱る、厄
介者扱いするなどの対応は症
状を悪化させることになりかっ
たりありません。認知症であつても一人の人間として何ら違いは
ありません。「愛されている」
「必要とされている」という実
感が必要なのです。
認知症だからこそ、感情の
揺れはストレートに行動に現
れてきます。心の安定が得ら
れれば、随伴症状の出現頻度
は必ず下がってきます。